

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	有限会社エイ・シー・エス		
事業所名	グループホーム 花みず木		
所在地	福岡市博多区西月隈3丁目3-54		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果確定日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_i_2011_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4070901188-00&PrEfCd=40&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成24年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で介護をし、ご入居者に喜んでもらえるサービスを提供する。そのためにレクリエーションの充実を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

”入居者の笑顔が家族の幸せ、それは又職員の幸せでもある”と言う施設長の思いを実践している「グループホーム花みず木」では、高速ランプの傍と言うアクセスの良さを生かし、頻繁にレクリエーションや食事会の催しを行っている。中庭には入居者が寂しくないようにと、2匹の犬が飼われており、利用者が一緒に散歩を楽しんだりもしていた。桜の下にはベンチがあり、いつでも、だれでも寛ぐ事が出来る。地域の祭りとして定着した秋まつりには今年は180名が集ったと聞く。企画は職員が計画し、イベントを実行する。職員が企画し、生け花教室や習字などのクラブ活動も楽しまれている。入居者一人ひとりが明るくよく笑う、元気なホームである。生活保護者の受け入れや権利擁護に対する支援も行っており、情報発信地として今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業方針を作成し、理念同様に実践するよう努めている。	施設長の「快適な介護をサービスする」という理念をもとに、接遇に取り組んでいる。利用者の喜びは、家族、職員の喜びと考えており、その思いは日常の業務の中、又、月1回のレクリエーション実施等を行う事で、職員同士確認し実践している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃、地域で開催されるサークルへの参加等で、交流を深めている。又、恒例になりつつある秋祭りにより、地域住民とのふれあいが出来ている。	毎年開催される秋まつりには、地域の子供達、民生委員、自治会長、近所の主婦、利用者と家族、職員の家族等約180名の参加があり、地域の行事としても定着している。散歩コースである近所の公園の清掃を、毎月入居者と職員で行う等、地域とのつながりを大切に続けている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議において、グループホームや認知症についての説明、介護保険の説明を行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度関係者を招き開催し、ホームでの活動内容や行事の報告、地域の行事への参加の提案、その他、参加者との意見交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。	2か月に1回開催され、自治会長、民生委員、児童委員、校区社会福祉協議会、包括センター、施設管理者、ケアマネージャーなど15余名が出席し、年間行事の報告や施設の取り組みについて提案、協議がなされている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議には地域包括センターに参加して頂き、行政との関係作りに役立っており、生活保護課等の担当者とも、密に連絡を取り現状を報告している。	生活保護者の入所受け入れを行い、生活保護課の担当者は2か月に1回訪問をしている。介護課担当者とは、法改正に伴う質問等に対応してもらえる関係を築いている。又、包括センターは運営委員会に参加している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修の実施や、入居者の現状を正しく把握し、見守りを行っている。	「身体拘束はしない」と施設長の考えを職員全員で理解し、外部研修を年に1回管理者が受講し、職員に伝達研修を行う。地域の「徘徊見守りセンター」に登録し推進会議でも協力をお願いしている。徘徊の恐れがある時間帯には注意深く見守りをする事で、施錠やセンサーの処置をしないケアに取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を実施している。	

自己・外部評価表(GHはなみずき)H25.3.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修報告会を行い、職員が制度について理解し、必要に応じて活用できるように努めている。	年に1回、ケアマネージャーと管理者が外部研修を受け、職員に報告研修をしている。事務的な事は管理者が理解しており、制度を活用している。入居者や家族が必要な場合は、管理者に情報を上げ活用できるように支援している。	研修は行われているが、今後更に職員の理解を深めるために、外部の専門家を活用することや、利用者・家族への案内や情報提供するためのパンフレット、資料の準備を進めていくことが期待される。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項の説明を十分に行い、了解を得て、確認書に署名して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情対応体制について説明を行っているが、面会時や、電話連絡時に話される事が多く、スタッフで対応出来るものは検討後、対応し、その他内容によっては、代表者が速やかに回答する様、取り組んでいる。	意見箱の設置はしているが、直接関係者から意見を聞き取ることが多い。ケアに関することはノートに記入し職員間で共有し、話し合い、2～3日以内で回答できるように努めている。又、内容によっては月1回発行の「花だより」に掲載し、回答するなどしている。	日常的な関わりから意見や要望を聞き取っているが、今後さらに意見を引き出していくために、2年前まで行っていた家族会の再開や、個別に家族の関わりや思いを聞き取る機会をつくるなど、それぞれの立場や本心をくみ取ることが期待される。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや、幹部会議において、職員の意見を聞く機会を設けている。	レクリエーション係、園芸係を決めて職員の自主性を尊重している。又、月1回のミーティングでは管理者は現場の提案を聞き、玄関先のベンチの設置等取り入れたり、秋まつりの計画にも積極的に意見を取り入れている。管理者が個別に相談する機会も持ち、自発的な改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	十分に配慮している。	採用に当たっては年齢、性別等の排除は無い。資格取得や研修の受講については施設長が積極的に支援をしており、それに伴う休みや、勤務変更にも協力的である。書道や手芸の特技を生かした職員と入居者の作品が随所にあり、職員からは「働きやすい職場」と言う言葉が聞かれた。	職員のその人らしさを大事にし、働きやすい職場を作っているが、今後は休憩と勤務のメリハリをつけるために、休憩スペースの確保や短い時間でも休憩が出来るような配慮がなされていくことを期待したい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の受講や、その報告会、社内研修により、人権について考え、業務に生かせる様取り組んでいます。	成年後見人制度・高齢者権利擁護について、年に1回、ケアマネージャーが外部研修を受け、職員に伝達する。研修資料を職員、一人一人が持ち、ミーティングで確認している。接遇に関しては日頃から職員間で注意し、不適切な場合はすぐに指導している。	

自己・外部評価表(GHはなみずき)H25.3.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個人の能力に合わせ、他施設への研修を組み込んだり、日常的に指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修を通じて、今後交流の機会が増える様、取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中から、細かい事も聞き逃さず、情報をスタッフ間で共有し、関係作りに役立っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、入居時等に傾聴した情報をスタッフ間で共有し、関係作りに役立っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを含め、現状での必要性を見極める努力をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ家に住む者同士のように、日常的に会話をしたり、家事を手伝って頂く事により、良い関係が出来ている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族共に会話を大切にし、信頼関係が深まる様、努力している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、家族や、関係者の協力を得て、支援している。	家族や民生委員から情報を貰い、馴染みの方との関係が続くように支援している。面会時は個室でお茶をゆつくり飲んでもらえるように配慮したり、馴染みの場所へ希望に添った外出が出来るように、同行するなどの支援を行っている。	

自己・外部評価表 (GHはなみずき) H25.3.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関係を築けており、それに職員が加わり、サポートしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、お見舞いに行ったりして、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、生活歴等を把握し、現在の状況に合わせて対応できるよう、支援している。	家族や民生委員から思いや意向を聞き取り、情報は職員間で共有できるようにノートに記録する。また意思の疎通が困難な方には選択肢を与えて希望を聞き取ったり、入浴時や散歩、入眠時のゆったりとした時間帯に聞き取り、本人の意向を引き出すような支援を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後共に、家族や各サービス担当者より情報収集し、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を記録し、職員間で話し合う事で、1人ひとりの現状を把握するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人を第一に考え、家族や関係者と話し合い、ミーティング等で検討し、計画を作成している。	職員毎に担当を決め、個別用、全体用に勤務者が記録に残し、月に1回ミーティングでケア・マネージャー・担当職員、管理者、家族、本人と検討を行っている。ケアプランは半年に1回見直しをするが、入退院、急変時はその都度変更している。プランに沿って記録は管理され、職員全員で共有されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画を基にした日々の記録により、ケアの実践効果を検討し、計画の見直しを行っている。		

自己・外部評価表(GHはなみずき)H25.3.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族からの要望に、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や会議に参加して頂き、協力を得ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で24時間往診可能な体制をとっており、その他には、定期的に訪問歯科、個別に他科受診も受けれるよう支援している。	提携医の往診は月2回あり、入所時に訪問診療で24時間体制であることを説明する。希望があれば、他の医療機関の受診に職員が同行し、職員が介助した際の家族への説明は口頭で行う。薬の変更、受診時の説明は記録で伝達し、職員間で共有している。又、口腔ケアについては週1回の細やかな訪問診療を行っている	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間連絡可能な体制が出来ている為、その都度、連絡、相談し、適切な看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を設置し、連携している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医と協議しながら、当事業所の方針を理解して頂き、支援に取り組んでいる。	契約時に提携医から終末期の意思の確認を行い、過去にも何度か看取りの対応を行ってきた。その際は外部研修、内部研修、毎週のミーティングなどで情報を共有し、職員全員の思いで受け入れを行った。今後も家族、知人など周囲の協力が得られた際は希望する状態にあわせた対応をしていく予定である。	今後も想定される看取りのケースに、事業所として対応していくために、事業所の思いを落とし込んだ方針の作成や、職員へのターミナルケアの研修や教育の機会を継続してもつことが期待される。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置についての研修内で訓練を行う他、訪問診療の医師、看護師に指導を受けている。		

自己・外部評価表(GHはなみずき)H25.3.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定火災避難訓練を、定期的に行うと共に、地域の方に参加して頂き、協力体制を構築する様努めている。	年に2回、消防署の指導を受け、昼夜想定避難訓練を行う。町内会長が元消防士と言う事もあり、地域への参加の声かけが来ている。隣接する有料老人ホームとも協力体制を取り、緊急連絡網を含むマニュアル作成も来ている。訓練状況については推進会議で報告する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴、性格等を把握し、親しみを持ちながらも、その方を尊重した声掛け、対応をしている。	施設長による接遇研修を年に1回行う。生活行動や性格等の情報収集をし、人格を傷つけず相手に合わせたケアが出来るように、職員同士も注意しながら対応している。個人情報の研修も行い、プライバシーに関わる物は施錠し管理している。毎日の記録も少し距離を取った場所で記入するなど注意して行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、本人の希望を傾聴し、自己決定できるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活ができるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みを把握し、その人らしさを生かしておしゃれが出来る様支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備から片付けまで一緒に手伝って頂き、本人、家族からの情報をもとに、1人ひとりに合った料理を職員と共に食べて頂いている。	フロア毎に利用者の状況や希望に沿った献立を職員と入居者で相談し、買物も行っている。嚥下状態、食べるスピード、好み等個別に対応し、職員も同じものを食べている。食事時の会話も盛んで家庭的な食卓である。準備や片付けも能力に合った作業を自ら選んでいた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の状態や、能力に応じて対応している。		

自己・外部評価表(GHはなみずき)H25.3.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを行い、夜間は義歯の消毒を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間毎のトイレ誘導や、PTイレを活用してその人に合わせた排泄方法に努めている	排泄リズムを把握し、声かけ、誘導を行っている。排泄の訴えが無い方には、表情や行動で読み取り支援を行う。リハビリパンツから下着へ移行した事例もある。夜間時もPTイレを使用するなどオムツ外しや排泄の自立を目指している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食品や水分補給運動などで取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望や体調を見極め入浴を楽しんでいただけるように支援している。	個浴を週2~3回実施している。ゆったりと入れるように本人の時間や希望日を考慮し、お湯も毎回張り替えている。拒否のある人へは無理には勧めず、清拭やシャワー浴などにし、本人の意思を尊重しながら入浴出来るように声かけをする。入浴は体調の変化や思い、気づきを感じ取れる時間としても大事にしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間中は熟睡していただけるよう照明や音に気を配っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターや看護師の説明を受け薬局からの処方などで全員理解している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや習字教室、生け花教室、3B体操などを行っている。		

自己・外部評価表(GHはなみずき)H25.3.26

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などで行っている。	月1回、食事会を催したり、高速を利用して遠出の外出を楽しんでいる。日常的には食材の買物に出かけたり、散歩等の外出支援を行っている。季節感を肌で感じられるよう、花見や素麺流しで外に出る機会を設けるなどしている。車いすの方でも同じように外出を楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は保管庫預かりとしているが本人の希望により使えるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各人の希望により対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れ、花を飾ったり、壁画を掲示したりしている。	職員と入居者の共同の手作りカレンダーや壁画が共有の場を賑やかにしている。一足早めのサンタや花が季節を感じられるように飾られている。トイレは車椅子、個室、男性用と広く、使用し易い作りとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に、居室や玄関のベンチで過ごせるように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や電化製品など持ち込んでいただき居心地よい居室作りに取り組んでいる。	部屋は和室と洋室を選ぶことが出来、仏壇、タンス、家族の写真が飾られている。布団やベットも選択でき、その方らしい生活の継続が出来ていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力を生かして身の回りのことができるよう安全のに配慮しながら自立支援している。		